

市民防犯インストラクター武田信彦

# 市民防犯の底力 1

## 市民防犯が目指すのは、安全な環境づくり！

### 一般市民ができる防犯

市民防犯とは「一般市民ができる防犯」の意味です。地域における市民防犯が目指すことは…

- ①犯罪が起きにくい環境づくり
- ②助け合いの環境づくり

ここでいう環境づくりとは、人と人とが緩やかにつながり合うような環境の中で、安全を生み出していく底力のことです。

その実践の形が、笑顔とあいさつを大切にする「見守り」なのです。

### 市民防犯



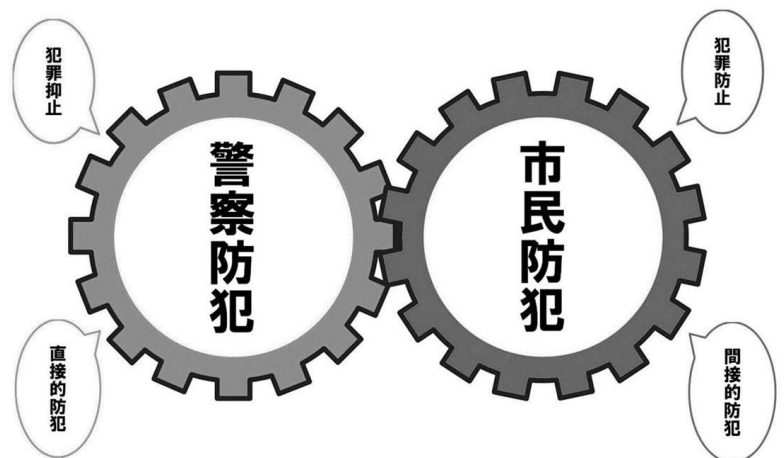
- ①犯罪が起きにくい環境づくり
- ②助け合いの環境づくり



笑顔とあいさつの見守り

### 治安維持のパートナー

私は、警察による防犯を「警察防犯」と呼んでいます。警察防犯の大きな役割は、犯罪や非行と直接対峙する「犯罪抑止」＝力や権限を行使する強い防犯です。一方の市民防犯は、「犯罪防止」＝犯罪が起きにくい環境づくりを目指します。犯罪や非行と直接対峙しないので間接的防犯とも呼んでいます。両者は、地域の治安維持のパートナーと位置づけられています。



### 地域の安全を守る協働と連携

地域の防犯は、市民防犯だけが担うものではありません。地域住民と、警察や自治体、教育委員会等の関係機関との連携・協働が欠かせません。連携・協働の力を効果的に発揮するためには、それぞれの「得意技」＝できること、できないことを知ることが重要です。とくに、地域住民と連携・協働・支援を行う関係機関の皆さんは、市民防犯の正しい理解が不可欠です。



# 市民防犯の底力 2



市民防犯インストラクター武田信彦

## 姿を見せることで高まる、防犯効果！

### 存在そのものが防犯効果を生み出す！

市民防犯の防犯効果を最も高める方法が、「姿を見せる」です。とくに、子どもを狙う犯罪など、人がいると悪意・犯意を出しにくくなるタイプの犯罪を防止する効果が期待できます。

市民防犯は、犯罪や非行と戦う活動ではありません。厳しい目で地域を監視する活動ではありません。地域や子どもたちへ目を向けて、優しい気持ちで見守りを行う防犯活動です。



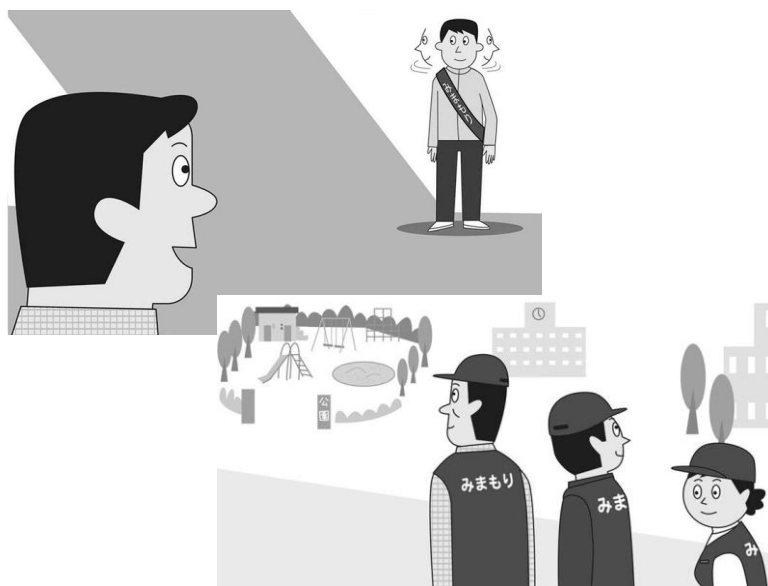
### 安全第一で取り組もう！

カラフルなユニフォームは、「姿を見せる効果」を高めることにつながります。

また、警察や自治体、学校やPTA等から地域の情報を得るとパトロールのコースを決める際に役立ちます。

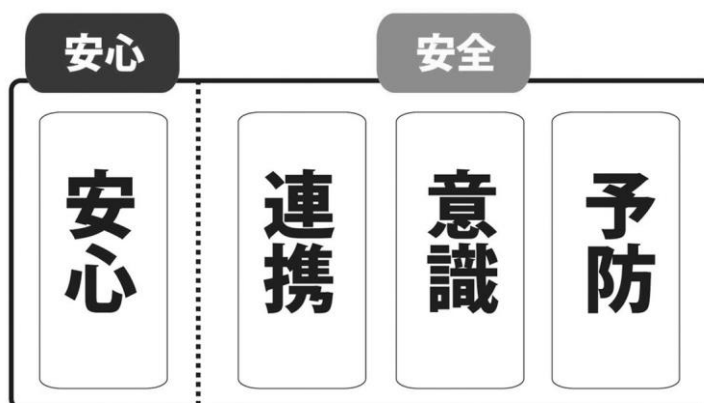
通学路の見守りを行う際は、十字路の角などで行うと効果的です。その際、背中側を埋めて安全を確保しましょう。

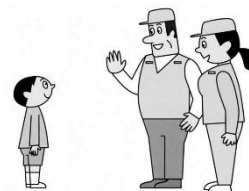
仲間がいる際は、対角に立っていただくと、①お互いの安全確認、②見守りも行いやすくなり、さらに、③全方位に対して「姿を見せる効果」を広げることができます。



### 市民防犯が生み出す効果

①予防の効果：姿を見せることで犯罪が起きにくい環境を生み出します。②意識を高める効果：防犯啓発を行うことで、犯罪に対する免疫力を高めることができます。③連携が育まれる効果：警察・自治体等の関係機関、学校・PTA、関係団体等とのつながりが生まれます。④安心が広がる効果：笑顔とあいさつを大切にする市民防犯は、安全のみならず、安心の輪を広げる効果も大きいのです！





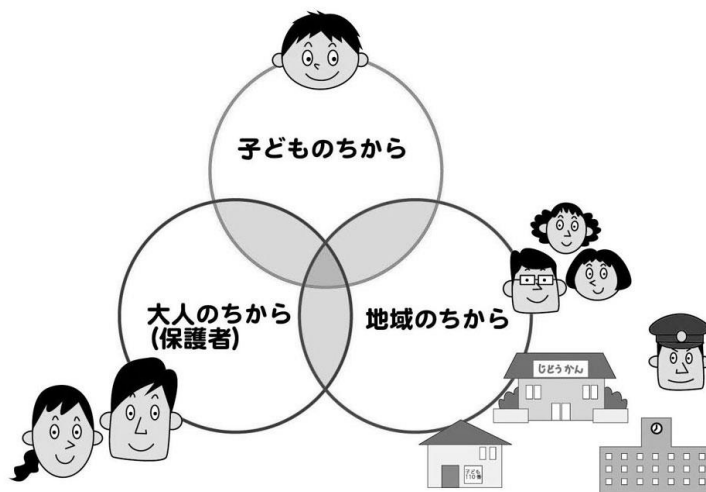
# 市民防犯の底力 3

市民防犯インストラクター武田信彦

## 子どもたちの安全を守るために！

### 子どもを守る3つの防犯力

子どもだけになりやすい環境の中で、子どもたちの安全を守るためには、①地域の皆様の見守り、可能な範囲での②保護者の皆様の付き添い、さらに、③子ども自身の防犯力が欠かせません。子どもたち自身も「ひとりにならない」振る舞い方や道選びをすることで、地域、保護者による防犯活動と子どもの防犯力が重なり合います。みんなで取り組むことが重要なのです！



### 見守りが生み出す大きな可能性

姿を見せることを意識する、さらに、地域の人々や子どもたちへ笑顔やあいさつの見守りを行うことが、地域の市民防犯の最大の効果を生み出します。それは、防犯効果のみならず、子どもたちへの大きなメッセージにもなっています。地域の皆様の取り組みと出会うことで、見守り・助け合いの大切さを学ぶきっかけになっているからです。そのバトンは、学生防犯ボランティア等へ受け継がれています。



優しい気持ち、笑顔、あいさつ大切に！

### 子どもの見守り時に注意すべきこと

とくに子どもの見守りを行う際は、注意すべきこともあります。

①過度な接触をしない、②飲食物をあげない、③私有地や車に入れない（保護する際をのぞく）。防犯活動を行う皆さんの善意が誤解されないことが重要です。さらに、悪意・犯意ある者が防犯活動を悪用して犯罪を実行することを防がなければいけません。

過度な接触はしない

飲食物をあげない

私有地や車に入れない



市民防犯インストラクター武田信彦

# 市民防犯の底力 4

## 地域防犯力の向上を目指して！

### 多様な防犯力を元気にしよう！

地域防犯力を元気にするためには、いくつかのアプローチが必要です。

- ①既存の防犯力の活性化。すでに活躍している皆様をしっかりサポートします。
- ②潜在的な防犯力の掘り起こし。関心がある人たちが参加しやすい「きっかけ」づくりも急務です。
- ③新しい防犯力の創出。地域の企業とのコラボ、最新技術の導入、斬新なアイディアの採用など、これからの防犯を形作る要素を探し続けることも、地域防犯の存続に欠かせないことです。

### ▶ 既存の防犯力の活性化！

### ▶ 潜在的な防犯力の掘り起こし！

### ▶ 新しい防犯力の創出！



### 広がる防犯活動のスタイル

防犯活動のスタイルも多様化しています。「ながら見守り」は、農作業や庭仕事、買い物やお出かけ、ウォーキングや愛犬の散歩、ジョギングの際などに地域や子どもたちへ目を向ける、意識を向けるような防犯活動です。生活の中で無理なく取り組むことができます。

「姿を見せること」「目や意識を向けること」が地域の安全を守る底力となるのです。



### 市民防犯は可能性が大きい！

優しさが出し合えるような、防犯を。コミュニケーションが生まれるような、防犯を。そして、人と人とがつながり合えるような、防犯を。それが市民防犯の大きな強みです！防犯以外の社会課題にも、見守り・助け合いは底力となるはずです。

## 笑顔とあいさつを大切に

### 人と人とがつながり合える防犯活動を！



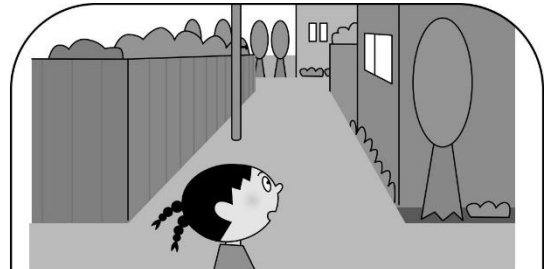


# 子どもの防犯 1

市民防犯インストラクター武田信彦

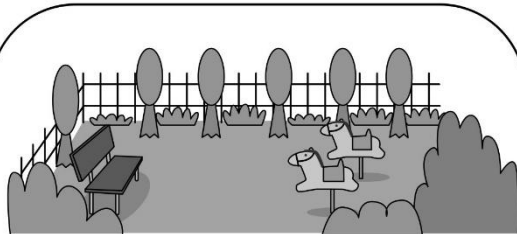
## 子どもだけになる「瞬間」に注意！

子どもの行動範囲で「ひとりになる瞬間」は、犯罪被害リスクが高まりやすいので注意が必要です。通学路や公共空間のみならず、集合住宅の敷地・共用部分、自宅の玄関周りなど「自宅周辺」でも十分注意してください。特定の場所ではなく、ひとりになる瞬間に着目して防犯対策を行いましょう。



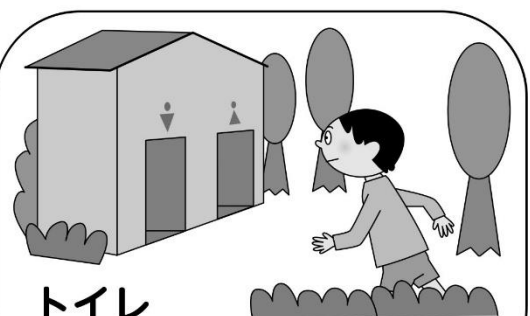
### みち

ひとがいないみちをあるくとき



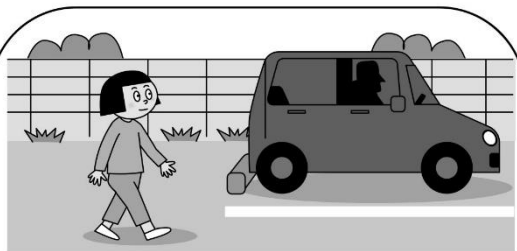
### こうえん

ともだちがいないとき、  
まわりからみえないところにいるとき



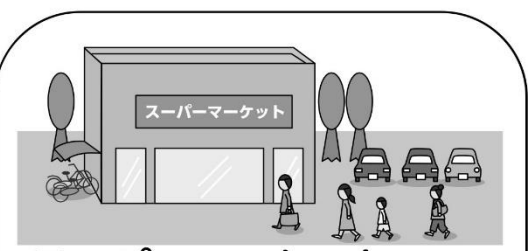
### トイレ

ひとりでトイレへいくとき



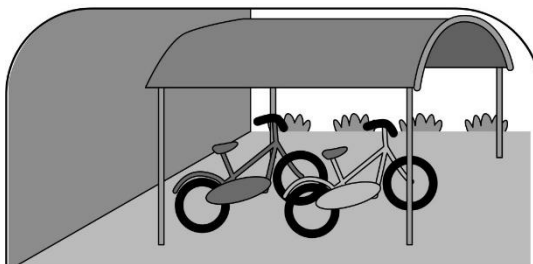
### ちゅうしゃじょう

ひとがのっているくるまのちかくを  
あるくとき



### スーパーマーケット・ ショッピングセンター

おうちのひとのちかくからはなれたとき



### じてんしゃおきば

じてんしゃおきばのなかにはいるとき



### いえのちかく

ひとりでうちにかえってきたとき



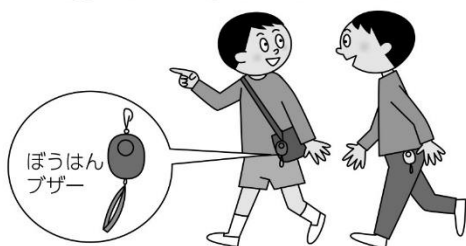
# 子どもの防犯 2

市民防犯インストラクター武田信彦

## 子どもがもつ防犯力を高めよう！

子どもの防犯力は、家庭や学校で育んだ「生きる力」そのものです。  
分かりやすい言葉で日頃から繰り返し確認しましょう。

### ①ひとりにならない



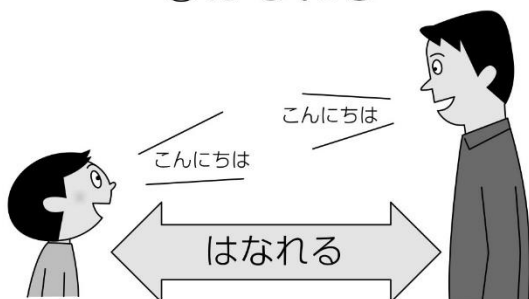
そとでは、なるべくひとりにならない  
ように、おうちのひとや ともだちと  
いっしょにあるきましょう！

### ②よくみる、よくきく



もし、ひとりに  
なったら、  
まわりをよくみて、  
まわりのおとを  
よくきいて、  
ちゅういしましょう！

### ③はなれる



ひとと あいさつをするときは、てが  
とどかない きよりに はなれましょう！

### ④ことわる



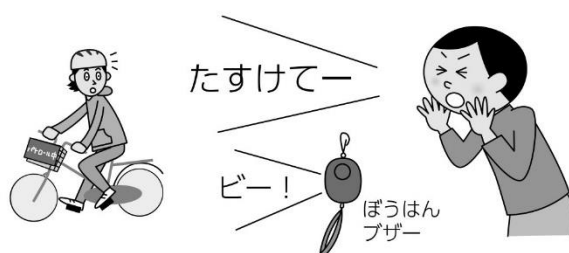
もし、おねがいごとを  
されたり、さそわれたりしたら、  
はっきり ことわりましょう！

### ⑤にげる

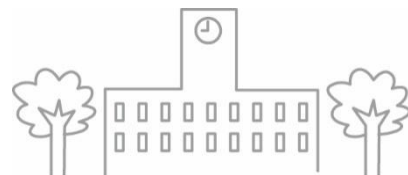


こわい!いやだ!と かんじたら、  
たすけてくれるひとが いるところへ  
にげましょう！

### ⑥つたえる



こわいこと、きけんなことを かんじ  
たら、まわりのひとに たすけてを  
つたえましょう！



# 学校の防犯力向上 1

市民防犯インストラクター武田信彦

## 想像力をフルにつかって、想定と対策を！

### 防犯対策から“予想外”を無くそう！

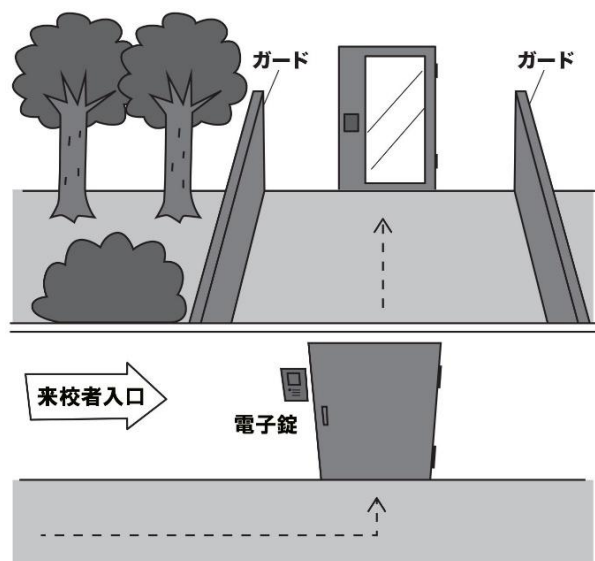
学校安全は、危機管理マニュアルに基づき、日頃からの備えや心構えが欠かせません。学校で起こり得る[事案][侵入者]については、先入観を持たずに幅広い視点から**想定**を行うことが重要です。不特定多数への暴力、ストーカー、クレーマー、窃盗、撮影等の迷惑行為、動機不明…。さらに、複数の侵入者、教職員がターゲットにされるケースなどの発生も想定する必要があります。



### 外構 → 敷地 → 校舎 → 受付

学校の状況に応じて、閉門・施錠など各段階での防犯力向上がもとめられます。

とくに来校者の**動線の管理**は防犯面からもポイントとなり得ます。看板による来校者用玄関への誘導、インターホン&電子錠での通用口の開閉、校庭側へ回り込むことを防ぐ対策等を行いましょう。校舎内の受付では、来校者を知らせるセンサー、確実な応対、教室エリアに立ち入れないゾーニング等の対応が重要です。

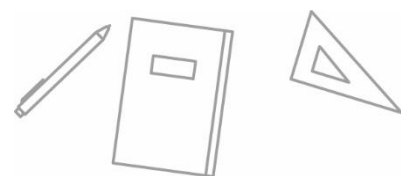


### 来校者への対応こそ基礎！

危険度が高まる**侵入者対策**は、日々の**来校者対応**の延長にあるものです。来校者対応を確実に行うことこそ、侵入事案の予防力となり得ます。受付を担当する職員のみならず、教職員ひとり一人が来校者へ目を向けて声かけを行う習慣が重要です。関係者か否か…属性を問わずに「あれ、変だな？」＝[防犯的違和感]をおぼえた際は、その感覚を無視せず、マニュアルに基づいて対応しましょう。







# 学校の防犯力向上 2

市民防犯インストラクター武田信彦

## ひとり一人の対応力とチームワークで防犯力アップ！

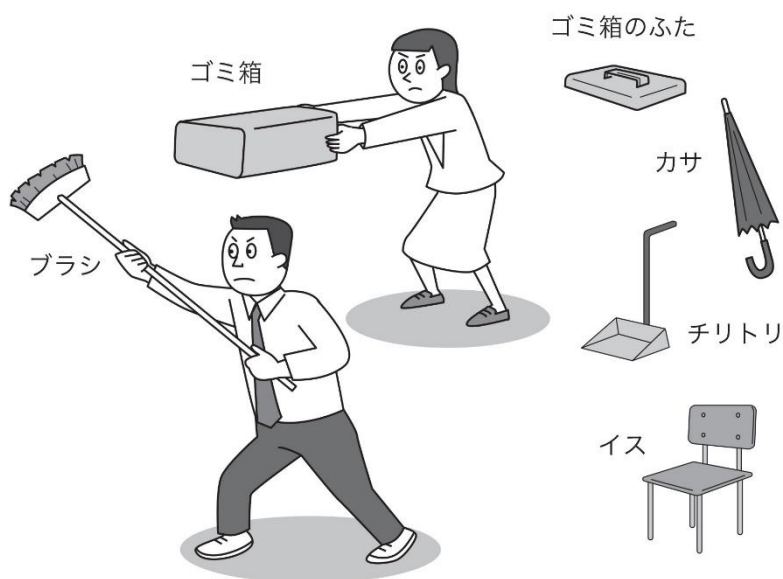
### 迷わず、すぐに！連絡と通報を

学校内で緊急事態が発生した場合は、発見・遭遇した人がただちに連絡・通報できることが一番です。通報から警察官が到着するまでには時間がかかります。誰もがどこからでも通報できる体制づくりが欠かせません。また、危険な事案にはチームワークでの対応が必要なため、トランシーバー等を駆使して校内での情報共有の体制を構築しましょう。



### 防護と抵抗で、身を守る！

万が一、刃物等の凶器が用いられる事案が発生した場合は、素手で対応せず、必ず物を手にして対応します。[防護]=盾となる軽くて丈夫な物で攻撃から身を守ります。[抵抗]=盾のような物が無い場合は、丈夫で長い物などを用いて、距離を確保する、致命傷を負わない行動をとります。日常的に使用する備品の範囲で活用できる物が多くあります。すぐに手が届くところに準備しておきましょう。



### ひとり一人の対応力とチームワークで！

学校で作成している危機管理マニュアルをすべての教職員が把握しておくことが基本です。来校者対応、緊急時の連絡・通報、児童や自身を守る防護・抵抗、児童の避難 or ロックダウン…。

緊急時には細かく確認できず、一人ひとりが自信を持って行動しなければいけません。また、個人の判断・行動を責めない、安全のための意見やアイデアが出しやすい雰囲気づくりも欠かせません。

